



東京農工大学 卓越大学院プログラム※

「超スマート社会」を新産業創出とダイバーシティにより
牽引する卓越リーダーの養成

2019年度 プログラム学生の募集

※プログラムとは：正規の大学院に所属しながら、追加で提供される講義や実習などの単位を取得することで、次のような魅力ある経験ができる5年一貫教育のことです。

- ① 海外留学経験や、海外研究機関と連携した国際共同研究
- ② 民間企業と連携した共同研究経験（博士人材と企業とのマッチングシステムも導入されます）

募集対象は、平成31年度に本学大学院に入学（進学）し、本学博士号取得に強い意志を有する者となります。詳細は4ページの応募資格をご覧ください。



国立大学法人
東京農工大学

卓越大学院とは？

プログラム概要

東京農工大学卓越大学院プログラム(プログラム名:「超スマート社会」を新産業創出とダイバーシティにより牽引する卓越リーダーの養成)では、2019年度に本学修士課程(博士前期課程、専門職学位課程)に入学する学生ならびに本学博士課程(博士後期課程を含む)に入学する学生を対象に、卓越大学院プログラムの履修生を募集します。専門分野の限定はなく、東京農工大学のすべての分野・専攻を対象とします。

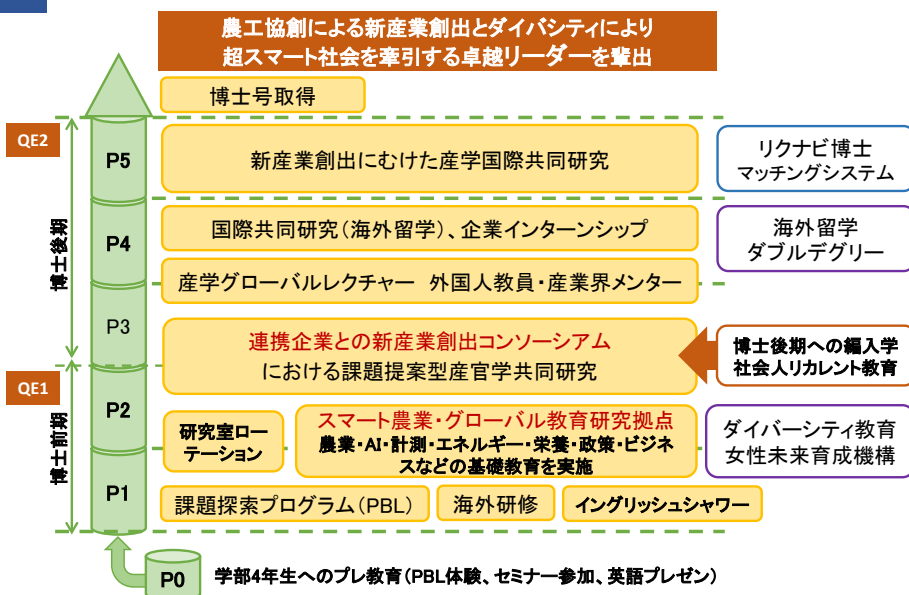
卓越大学院では、“新産業創出”と“ダイバーシティ”を特色とし、農学と工学が協創し、民間企業や海外研究教育機関等と協力して、“先端工学技術によって実現する農業流通革命に資する新産業創出”を一つの課題テーマ例とし、様々な研究分野における研究テーマを自由度高く設定して高度博士人材の養成に取り組みます。

具体的には以下のような力を身につけた博士人材を養成します。

- ① 農学の社会的課題を工学先端技術で解決する「農工協創による新産業創出」に挑戦する人材
- ② イノベーション人材に必須なダイバーシティ(多様性:性差・国籍・社会経験など)を強化
- ③ 俯瞰力、独創性、ダイバーシティ理解、国際競争力と高度専門性を備えた卓越リーダー

カリキュラム

プログラム1~2年次には、グループワークにより課題解決力を身につけ、また、英語力強化と海外経験を目的とする海外連携機関における海外研修も実施します。連携企業の実務家による講義や民間企業・公的研究機関で構成される新産業創出コンソーシアムの下でのプロジェクト型実践的教育も設けており、産学が一体となって人材養成にあたります。



プログラム3年次からは、課題提案型の産学連携共同研究や海外連携機関における国際共同研究など、産業界で役立つ力を身につけるためのまさに実践的な活動にも取り組みます。

プログラムを修了するためには、各専攻の修了要件の他、卓越大学院プログラムが提供する、特色ある科目を選択・履修し、Qualifying Examination(QE)に合格することが条件となります。QEは、博士前期課程(修士課程)2年次の後期(QE1)と、博士後期課程3年次(QE2)に実施します。

卓越大学院における人材育成支援の特色

海外留学に対する支援

卓越大学院プログラムでは、グローバルな人材の育成に関する様々な経済的支援を提供します。例えば、プログラム履修生は、1～2年次において短期(1週間程度)の海外研修を実施するため、その渡航にかかる経費を支援します。研究室ローテーションを用いた留学も支援します。また、3年次以降になると、中長期(半年～1年程度)の海外留学を実施するための経費についても手厚い支援を受けることができます。それらの海外留学の準備期間にはイングリッシュシャワーを通じた英語力の強化支援も提供されます。



企業経験に対する支援



プログラム履修生は、民間企業や連携研究機関で実際に働いている実務者が提供する講義を受講し、産業界の生の話を聞くことができます。また、3年次以降になると、企業との共同研究テーマを提案するための指導や、自らの提案が認められれば実際に研究費が配分され、学生自身と企業との共同研究に発展するといった、従来の大学院教育では経験することができない産業界への貢献を強く意識した博士人材育成のための様々なサポートも受けることが可能です。

プログラム修了後の支援



プログラムを修了した学生が産業界や国際機関などの適切な場所で活躍できるための支援として、博士人材と民間企業をつなぐ博士マッチングシステムの構築・導入を実施し、プログラム履修生と民間企業とのマッチングを支援します。

主体的に学ぶための支援

プログラム履修学生は、講義や演習などで何を学習したかを「ポートフォリオ」にまとめ、継続的に自身を評価します。さらに、「課題設定能力」「構想力」「創造性」「計画・実施能力」「統合化能力」「ダイバーシティ理解力」「コミュニケーション能力」を自己評価し、それを指導教員および連携教員が評価することで、主体的な自己成長を促すための「コンピテンシー評価」を行います。これは、スマートフォン等のネットを活用して確認できるため、本プログラムにおいて経験することが自身の成長にどのようにつながるのかをいつでも確認しながら効率的に学ぶことができます。

応募資格

- ・平成31年度に本学大学院修士課程(博士前期課程、BASE学府5年一貫制1年次を含む)1年に入学し、かつ修士号取得後は引き続き本学博士課程又は博士(後期)課程に進学する意思を有し、さらに本プログラムの教育・研究理念に合致する目標を持つ者。
- ・平成31年度に本学大学院博士課程(博士後期課程、共同獣医学4年制博士課程、BASE学府5年一貫制3年次を含む)に入学し、本プログラムの教育・研究理念に合致する目標を持つ者。なお、共同大学院においては本学に本籍を有する者。
- ・上記以外の途中編入を希望する学生も参加を認める場合があります。

専攻・研究分野・国籍・性別・社会人など、制限はなく広く募集します。

最終選考に合格し、本プログラムの養成対象者となった学生は、所定の科目を受講し、一定の単位数を取得後にQE2に合格することで、学位記にプログラム修了が併記されます。学位(修士、博士)は所属学府または研究科から取得することになります。

※応募にあたっては、主指導教員の承認を得て、研究内容及び面接試験日程等の確認を必ず行ってください。また、プログラム学生に採用された場合は、主指導教員へ連絡し、今後の研究計画等の打ち合わせを必ず行ってください。

応募申請書

本学学生掲示板に掲載するほか、各地区学生支援室、学務部総合支援課または主指導教員から入手することが可能です。

選考基準

1次選抜:書類審査

学部での成績および志望理由等から総合的に評価する。

2次選抜:面接

面接では以下の内容に関する10分間のプレゼンテーションおよび質疑応答(計15分)により、学力・研究能力とともに、本プログラムへの理解と意欲などについて総合的に評価する。

- ① 本プログラムへの志望動機
- ② これまでに取り組んだ研究の概要と、本プログラムを通じた今後の研究についての展望
- ③ 本プログラムを修了し、学位を取得した後の将来構想

採用予定人数 M1:18名程度、D1:7名程度

応募・選考スケジュール

説明会:2019年1月29日(火)12:15~12:50 小金井キャンパスL1321教室

2019年1月30日(水)12:15~12:50 府中キャンパス 2号館 2-11教室

募集期間:2019年2月4日(月)~15日(金)

第一次選考(書面審査)の合格発表:2019年2月20日(水)

第二次選考(面接審査)の実施日:2019年2月28日(木)

合格発表:2019年3月1日(金)

<お問い合わせ>

東京農工大学学務部学生総合支援課 井村/阿部/井上

E-mail: girikikaku@m2.tuat.ac.jp TEL: 042-367-5943/5953/5882